

# 俺のプリキュア



- 2018/11/04
- DEEP ACID



# 何故プリキュアか？ [1]

- 身も蓋もない言い方をすれば、「面白い大人向けの番組が少ない」から
- アニメの通史は語れない、テレビドラマエンタメとしてのプリキュアを語る
- 日本のドラマは大人の恋愛を描けなくなった
- 水戸黄門が終わり、勧善懲悪は大人のドラマから姿を消した。また、プリキュアは勧善懲悪であるだけでなく、改心した人を仲間にするドラマ



# 何故プリキュアか？ [2]

- タブーを乗り越えて本来のPC(Political Correctness)を描いている
- マニアとファミリーが両立するアニメ
- ラブライブが地上波放送されない限り、プリキュアの勝ち
- 作者が死んでも、声優が交替しても、アニメは続く
- プリキュアは半分「音楽」番組
- 人間が踊るよりカッコいいED ダンス



# HUGっと！プリキュア (2018)

キュアアンジュ  
(薬師寺さあや)

キュアエトワール  
(輝木ほまれ)

キュアマシェリ  
(愛崎えみる)

キュアエアムール  
(ルールー・アムール)



キュアエール  
(野乃はな)



## 身も蓋もない言い方をすれば、 「面白い大人向けの番組が少ない」から

- ニチアサを觀賞するようになったのは杉本有美ちゃんが出演した「炎神戦隊ゴーオンジャー」から。
- 一応その頃から仮面ライダー、プリキュアをセットで(当時は「題名のない音楽会」も含まれていた)觀賞していたが、プリキュアを好きだと意識するようになったのは「スイートプリキュア」(2011)から。
- その後「ハピネスチャージプリキュア」(2014)辺りは興味が減ったが、「魔法つかいプリキュア」(2016)辺りから復活し、「キラキラ☆プリキュアアラモード」(2017)で福原遥ちゃんが声優デビューするなどして、安定的に面白いと思うようになった。
- ニチアサはNHKの朝ドラがない日に、テレ朝が朝ドラをやっている、という感じで、習慣的に觀賞する番組になっている。  
なので、内容的には子ども向けであっても、基本的に朝ドラ感覚で観ている。





# アニメの通史は語れない、 テレビドラマエンタメとしてのプリキュアを語る

- 大人向け番組がつまらない、という観点は、この後述べる。
- また、少女アニメヲタではないので、「セーラームーン」を始めとした他の少女アニメとの比較検討はしない(ただ、プリキュアがサザエさんやドラえもんと並ぶ国民的アニメかどうかは今後検討してみたい)。
- あくまでも比較対象は大人向けドラマ。また、ニチアサ3番組同士の比較もあまり意味はないと考える(逆に、この3番組をセットで提供する東映の意図には興味あり)ので、基本的に避ける。

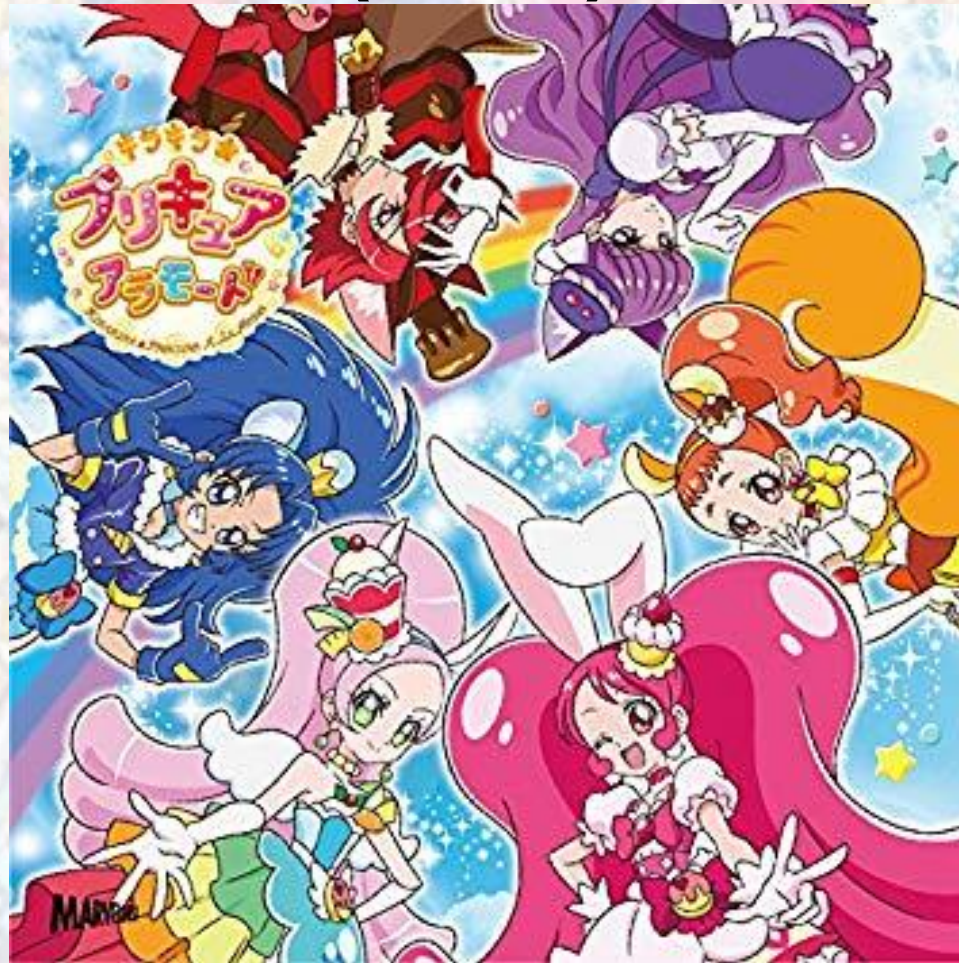


# キラキラ☆プリキュアアラモード (2017)

キュアショコラ  
(剣城あきら)

キュアジェラート  
(立神あおい)

キュアパルフェ  
(キラ星シエル)



キュアマカロン  
(琴爪ゆかり)

キュアカスタード  
(有栖川ひまり)

キュアホイップ  
(宇佐美いちか)



## 日本のドラマは大人の恋愛を描けなくなった(1)

- トレンディドラマブームの頃から(要するにバブル時代から)日本のドラマはつまらない、と思っている。と言うか、個人的に昔は音楽ライフが充実していたので、テレビドラマは必要なかった、とも言える。
- 社会現象になったドラマと言うのは今も昔もそれなりにあるが、オタク的に深掘する要素はなかったし(白線流しでロケ地めぐりと言うのはあった)、ワンクールで終わるスタイルは長く愛せるエンターテインメントとは到底言えない。  
**ニチアサは一年間見続けることに意味がある。**
- 大人向けドラマは単なるエンタメだが、子供向けドラマは視聴者のその後の一生に影響を与えかねないドラマなので、その意味で深いドラマになる。



## 日本のドラマは大人の恋愛を描けなくなった(2)

- ちなみに、韓流ブームは日本の恋愛ドラマのターゲットの狭さ(日本の恋愛ドラマは20~30代女性にターゲットを絞っている。
- 韓流ドラマはその隙間の40~60代女性に受けた)に起因するが、本来あのようなソープオペラはフジテレビのお家芸であり、本来日本も得意としていた分野である(安室奈美恵らのダンスポップだって、約10年を経てKポップとして逆輸入された)。
- 現在は(原因は分からないが)メロドラマは衰退してしまった。メインストリームのカルチャーが衰退した分、子供向けドラマがクローズアップされる時代になった。



## 水戸黄門が終わり、勧善懲悪は大人のドラマから姿を消した。 また、プリキュアは勧善懲悪であるだけでなく、 改心した人を仲間にするドラマ

- 最近ではオリンピックが近いからか、「頑張っている人、頑張っている組織を応援」するドラマが目立つ(もちろんプリキュアも例外ではない)。
- 勧善懲悪の善と悪の境界は、仮面ライダーを見ていても分かる通り(善と悪の境目がナイーブに描かれる)、今日、大変ナイーブな問題と化し、描き方を間違えればすぐに炎上の対象となる。
- 結果として、勧善懲悪を全面に押し出したドラマは作りにくい時代になったと考える。



# 魔法つかいプリキュア(2016)

キュアフェリーチェ  
(花海ことは)



キュアミラクル  
(朝比奈みらい)

キュアマジカル  
(十六夜リコ)



# タブーを乗り越えて本来のPC(Political Correctness)を描いている

- その一方で、視聴率をあまり意識しない、子ども向け番組≒教育番組のチャレンジが面白い時代である
- 仮面ライダーやスーパー戦隊は今やイケメン俳優の登竜門になっているし、Eテレでアイドルや声優をチェック、と言うオタク的なアプローチに応える番組が少なくない。
- プリキュアは子供番組と言う形で現在も勧善懲悪を描こうとする一方、最近では女性やLGBTの問題を最先端で扱うドラマとして注目されている。



## マニアとファミリーが両立するアニメ

- 国民的アニメのコスプレイヤーは少ない

- 例えばコミケにサザエさんやちびまるこちゃんのコスプレしているのか？  
(いても少数派だろう)変身願望のようなマニアに受ける要素が他の国民的アニメにはない。
- プリキュアも今やこうした国民的アニメの1つになったが、  
戦隊と言うキャラクターがマニア受けを両立させている。



# スイートプリキュア (2011)

キュアメロディ  
(北条響)



キュアビート  
(黒川エレン)  
→セイレーンから  
転身

キュアリズム  
(南野奏)



## ラブライブが地上波放送されない限り、 プリキュアの勝ち

- ウィキペディアによれば、関東圏ではTOKYO MXが2013年、2014年に放送。地上波での放送は名阪エリアのみ。
- プリキュアのように全国放送され、(2004年から)15年間途切れることなくシリーズ化された例は少ない。



# 作者が死んでも、声優が交替しても、アニメは続く

- クレヨンしんちゃんの声優が矢島晶子さんから小林由美子さんに交替し、ちびまる子ちゃんのさくらももこ先生が亡くなった2018年、それでも放送コンテンツは安定的に続いている。
- ちなみにプリキュアシリーズの原作者、東堂いづみは、スーパー戦隊の八手三郎同様、特定の個人ではなく東映の著作権管理用の共同ペンネームである。



## プリキュアは半分「音楽」番組

- 多くのシリーズで楽器が武器として繰り返し登場する。
- アニメの振付をプロの振付師が担当。  
エンディングのダンスシーンは下手な人間のダンスよりかっこいい。
  - HUGプリ後期主題歌CDと付属DVDのダンスは、着ぐるみ実写となっている。エンディングのダンスアニメがおまけでは作れない力の入ったものであることを示している。
- かつての「題名のない音楽会」への橋渡しの名残と考えられる。



# GO!プリンセスプリキュア (2015)

キュアトゥインクル  
(天ノ川きらら)

キュアフローラ  
(春野はるか)



キュアマーメイド  
(海道みなみ)

キュアスカーレット  
(紅城トワ)  
→トワイライトから  
転身



ニュース

さくひんじょうほう  
作品情報

キャラクター

ストーリー

しゅだいか  
主題歌  
MUSIC

Blu-ray  
DVD・本

スペシャル

イベント



まいしゅうにちよう  
**毎週日曜あさ8時30分より**  
あさひけいれつ ほうそうちゅう  
**ABCテレビ・テレビ朝日系列にて放送中!!**  
さんいんほうそう まいしゅうどうようごぜん し ふん ほうそうちゅう  
BSS山陰放送は毎週土曜午前11時15分より放送中

公式サイト

<http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/>